

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)フクダ電子グループ会社 新築計	階数	地上4F
建設地	さいたま市中央区鈴谷2丁目761-1 外7筆	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	145 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年12月 予定	評価の実施日	2022年3月2日
敷地面積	3,783 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社本間組建築事務所
建築面積	923 m <sup>2</sup>	確認日	2022年3月2日
延床面積	3,188 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社本間組建築事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 78%  
③上記+②以外の 78%  
④上記+ 78%

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

#### Q 環境品質

##### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

##### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

##### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

#### LR 環境負荷低減性

##### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.7

##### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

##### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> フクダ電子グループ会社にとって、埼玉県拠点としてふさわしく、環境に配慮された建物となるように計画している。 駅近くに計画される建物のため、駅前から見た際の景観に配慮している。		
<b>Q1 室内環境</b> 断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。 喫煙室を設け、非喫煙者が煙に曝されないような対策をするなど空気質環境にも十分配慮している。	<b>Q2 サービス性能</b> 壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。内外装共防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
<b>LR1 エネルギー</b> LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 自動水栓などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)フクダ電子グループ会社 新築計画**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		-		<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.2</b>	0.15	-	-		<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音		事務室:床・タイルカーペット、天井:岩綿吸音板		<b>4.0</b>	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.3</b>	0.35	-	-		<b>2.3</b>
2.1 室温制御				<b>2.5</b>	0.50	-	-		
1 室温				1.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		窓SC:0.53窓U:3.81、外壁U:1.24、屋根U:0.33、日射遮蔽性能、断熱性能を有する		4.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.6</b>	0.25	-	-		<b>2.6</b>
3.1 昼光利用				<b>2.4</b>	0.30	-	-		
1 昼光率				2.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度				<b>2.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.3</b>	0.25	-	-		<b>3.3</b>
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質				3.0	1.00	-	-		
4.2 換気				<b>2.6</b>	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上		4.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙室を設け、室内を負圧に保つ等、非喫煙者が煙に曝されないような対策をしている		5.0	1.00	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-		<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.8</b>	0.40	-	-		<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>1.6</b>	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペースは執務スペースの1%以上+自動販売機の設置		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内壁・床に防汚性建材を採用、風除室扉どうしが同時感知しない様十分な距離を確保、外部金属部材は垂鉛メッキ処理		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30	-	-		<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイルカーペット:20年、ビニルクロス貼:20年、岩綿吸音板:30年		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管:塩ビライニング鋼管(B)他、汚水管・雑排水管:塩ビ管(B)、冷媒管:銅管(C)、Eは不採用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
<b>2.4 信頼性</b>				<b>3.2</b>	0.20	-	-		

	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上0.3未満		4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>	事務室床積載荷重3500N/m <sup>2</sup>		<b>4.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	ケーブルラック、FEP管採用		5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	ケーブルラック、空配管採用		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	BPI <sub>m</sub> =0.80		<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.70		<b>4.0</b>	0.50	-	-	<b>4.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.0</b>	0.20	-	-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1 節水	節水コマに加えて、節水型機器の採用		<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.9</b>	0.60	-	-	<b>3.9</b>
2.1 材料使用量の削減	QLデッキ、既成コンクリート杭(F.T.Pile構法、Hybridニーディング工法)		4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	陶磁器質タイル・床材、ビニル系床材・床材、断熱材・スラブ下断熱		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地により躯体と仕上げ材が容易に分別可能、OAフロアを採用		5.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ノンフロン断熱材採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない		<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	駐輪場・駐車場、荷捌き用駐車施設の確保、出入口への配慮		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	

		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目を一部満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている	4.0	0.70	-	-	
		2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	